

# 1 小説 (1)

## 確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

CAMP

〈山田智彦「父の謝肉祭」より〉

(注) 土左衛門＝水死者のこと。

□(1) ①・②に入る最も適切なことばを、それぞれ次から選び、記号

で答えなさい。

- ア にここにして      イ いらいらして  
 ウ もつたいぶって      エ かしこまって  
 オ あわてふためいて      カ あっけにとられて

①
②

□(2) ———線①「彼は、上級生たちもこわがってあまり行かない、とっておきの場所に父を案内した」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□①「上級生たちもこわがってあまり行かない」ということから、この「とっておきの場所」がどんな場所であることがわかりますか。それを「な場所」と表した場合のに入る最も適切なことばを、本文中から漢字二字で書き抜いて答えなさい。

<input type="text"/>
----------------------

□②「彼」が、このような「とっておきの場所」へ父を案内した最大の理由を、「から」に続く形で、本文中から十六字で探し、その最初と最後の五字を書き抜いて答えなさい。

<input type="text"/>	から
----------------------	----

□(3) ———線②「面はゆさにまじって、奇妙な誇らしさが彼を満たしはじめていた」とありますが、このときの「彼」の気持ちの説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 父が、ほかの子たちに尊敬されているのを知り、父のような立派な人物の息子であることの幸福感と感激で胸がいっぱいになっている。  
 イ 川での泳ぎを通して、これまで家に不在がちで疎遠だった父とのきずなを深めることができたように思い、満足感にひたっている。  
 ウ 不在がちで許しがたいと思っていた父が、自分を連れ出し、長い間の罪ほろぼしをしてくれたことに、喜びと感謝の念がこみあげている。  
 エ これまで知らなかった父のたくましい一面を知り、そんな父がほかの子たちに賞賛されていることで、とまどいつつも、得意に思う気持ちになっている。

<input type="text"/>
----------------------

□(4) 本文の表現上の特徴についての説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 「彼」と少年たちとの心の通い合いが、テンポよく展開する会話によって表されている。  
 イ 「彼」や父の心理は直接表現されず、行動や情景描写で暗示されている。  
 ウ 「彼」とは微妙な関係にある父の複雑な気持ちずしよが随所で表現されている。  
 エ 「彼」の内面の細やかな心の動きが、客観的にくわしく描かれている。

<input type="text"/>
----------------------

●  
**練成問題**

- ① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

SAMPLE

〈村上しいこ〉「うたうとは小さないのちひろいあげ」より

□(1) — 線①「あ、いいな。その発想」と、いと先輩が言ったのは「私」の発言がどういうものだったからですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 短歌の基本をおさえた考え方ができている発言。
- イ 新しい切り口で物事をとらえることができている発言。
- ウ 状況を正確に表した表現ができている発言。
- エ 相手に伝わりやすい言い方を工夫できている発言。

□(2) — 線②「日々の生活の中で感じる、喜怒哀楽の、その瞬間」を言いかえたことばを、本文中から十六字(読点も字数に数えます)で探し、その最初と最後の五字を書きぬいて答えなさい。


□(3) — 線③「先生」と言ったときの「私」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア うた部に入ったばかりだが、先生の説明をよく聞いて、他の部員に負けないような短歌を作れるようになりたい。
- イ 先生がしている、ある短歌についての解説には、よくわからないところがあるので、指摘してすっきりしたい。

ウ 今までの復習として、うた部のみんなに先生が短歌の説明をしているので、せっかくだからよく聞いておこう。

エ 新入部員の自分のために、先生が短歌についての初歩的な解説をしてくれているので、しっかり理解したい。

□(4) ※に入ることばとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 競争力と論理性
- イ 決断力と獨創性
- ウ 瞬発力と柔軟性
- エ 包容力と協調性

□(5) 本文の内容に合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いと先輩は、大人っぽい雰囲気を持っていて、短歌を作るときは、いつも同じものを集中して観察して作っている。

イ 清らは、明るく、お調子者で、うた部の活動にも楽しんで参加している。

ウ 先生は、「私」にも短歌を作ることを楽しんでもらいたいと思い、具体的に短歌の作り方を教えようとしている。

エ 「私」は、うた部に参加することをとても楽しみにしていて、自分が短歌を作るのに向いているのではないかと思っている。